

瀬戸内市の旅

Journey of Setouchi City

伊木家ゆかりの地、虫明めぐり

千力山の山上、風光明媚な虫明の高台に、かつてこの地に陣屋を構えた伊木家の一族が眠っています。伊木家は、岡山藩主池田家に仕え、3万石の領地を賜っていました。その足跡を示すものとしては、お茶屋と呼ばれた陣屋跡を示す石碑や、市指定文化財の「伊木氏墓碑(3代、13代)」が残されています。



伊木家お茶屋跡

墓所は千力山と海を渡った長島の2カ所にあり、虫明に最初にやってきた3代目から13代目までの歴代当主の墓が並んでいます。筆頭家老ながらも大名級の規模を誇り、非常に立派な墓であったことが偲ばれます。

昨年からは、地域のコミュニティ協議会により、周辺の整備が進められ、新しい案内看板も設置されました。散策しやすくなった千力山と長島で、豊かな自然にふれながら、史跡を巡ってみてはいかがでしょうか。

千力山のふもとには、伊木家のお庭焼が起源とされる「虫明焼」の窯元があり、作陶が行われています。さらに古い佇まいの民家が残る町や、真っ白な貝殻がたくさん積まれた漁港をのんびり歩いて、どこか懐かしい虫明の風景を楽しむのもおすすめです。また長島には飲食できる施設もあり、散策の後は、海辺の景色をながめながら、ゆっくりと過ごすことができますよ。



千力山のふもとにある伊木家ゆかりの興禅寺(駐車場利用可)



千力山の山上にある3代目・伊木忠貞の墓



茶陶として人気のある虫明焼。中央公民館1階の「虫明焼展示室」で見ることができます。
▲清風与平作 江戸後期



利用のご案内

▷所在地 瀬戸内市邑久町虫明
裳掛地区コミュニティ協議会の「もかけむらおこしプロジェクト」Youtubeチャンネルにて、伊木家紹介映像が公開されています。



「もかけむらおこしプロジェクト」Youtubeチャンネル
www.youtube.com/channel/UCqR8W7KGxDgs-50D71UHTMQ

瀬戸内発見伝

巻之百四十六

児島高德と宇喜多直家

市の南西部を本拠とした一族

現在の瀬戸内市邑久町大富、向山、北島周辺に、かつて大富氏、今木氏、和田氏、射越氏といった武将がいました。

これらの武将は、和田氏の一族と言われ、鎌倉時代後期から南北朝時代に、鎌倉幕府や室町幕府(北朝側)と争った後醍醐天皇(南朝側)に味方して戦ったことが、「太平記」に描かれています。「太平記」は、後醍醐天皇が即位した文保二(1318)年から足利義満が登場する貞治六(1367)年までの約50年間が描かれている物語です。

この和田氏の一族から、児島高德という武将が現れました。現在、上寺山餘慶寺が建つ地に屋敷を設けていたと伝



上寺山餘慶寺の児島高德、和田範長一族供養塔

わる和田範長の、子とも孫とも言われている人物です。高德は、現時点で、「太平記」にしか見られない謎の人物で、その存在を疑う研究者もいます。しかし、同族と思われる大富氏や今木氏が確かな史料に見られることで、最近では実在性が少しずつ高まってきています。

餘慶寺には、児島高德公、

児島高德は、鎌倉幕府との戦いに敗れ、隠岐の島に流される後醍醐天皇を、兵庫県と岡山県の県境に近い船坂山で奪回しようとした。その後、天皇が宿泊していた津山市院庄の館(現在の作楽神社)の桜の木に、天皇を慰める詩を刻んだと言われています。天皇が隠岐の島を脱出し



上山田の児島高德墓所



津山市「作楽神社」児島高德像

た後も、南朝側の武将として北朝側の武将と各地で戦いました。

児島高德の墓所

児島高德の墓所と言われている所は、群馬県や兵庫県にありますが、瀬戸内市にも存在します。上山田にある墓所は、高德の屋敷跡との伝承があり、地元の人々が代々守り伝えてきました。

児島高德と宇喜多氏のつながり

瀬戸内市出身の戦国武将である宇喜多直家は、児島高德の子高家の子孫にあたるといふ伝承があります。岡山市の乙子城(直家が初めて城主になった城)の麓には、和田範長のものと言われている墓が存在し、直家が先祖にあたる範長(高德の祖父か父)を供養して建てたといわれています。瀬戸内市内にある、児島高德のゆかりの場所と宇喜多直家のゆかりの場所を、合わせて巡ってみるのもおもしろいかもしれませんね。